

再生ドラム缶

- ドラム缶そのものが貴重な資源
- ドラム缶が経る3つのライフステージ
- 再生ドラム缶は通販でも購入可能



ドラム缶そのものが貴重な資源

国内でのドラム缶新缶生産量は、震災以降若干の上向き傾向を示しています。しかしながら、近年続く原油生産国の不安定な状況、加えて、米国や欧州の財政問題、タイの洪水、また、輸出産業にとって最も深刻な超円高の進行によって、日本経済は先行きの不透明な状況が続いています。現在の円高水準が当面このまま推移した場合、各事業者生産拠点の海外への切り替えの流れは加速し、経済弱体化による内需減少はさらなる悪循環へと繋がります。

海外から輸入される鉄鋼原料の価格は震災以降高値で推移しており、現在の経済状況や、内需減少の流れは国内の新缶生産量を圧迫すると同時に、再生缶数も駆逐します。すなわち、現状国内流通している新缶ドラム缶自体が、大変貴重なリサイクル資源と言えるのです。

再生缶は新缶と比較して価格も安価。新缶製造時と比較してリサイクル時の環境負荷も少なく、需要の高い容器です。使用済のドラム缶は、回収・買取をしてくれる信頼できるメーカー等に必ず連絡し、不法投棄などを未然に防ぎましょう。

使用済のドラム缶を確実にリサイクルルートに乗せる事。
これこそが次に必要になる再生缶の貴重な資源となるのです。

ドラム缶が経る3つのライフステージ

1st stage

ドラム缶メーカーによって生産された新品のドラム缶（新缶）は、ドラム缶を必要とするユーザー（石油会社、化学会社、塗料会社、廃棄物処理会社、他）の元で、内容物を充填され、配送容器や保管容器として利用されます。

2nd stage

使用済となったドラム缶はドラム缶更生メーカー等により回収され、材質、ドラム缶の状態に応じて適切な更生処理が行われます。回収時、状態のよいドラム缶は選別され、洗浄や再塗装等の処理を経て、再生ドラム缶（更生ドラム缶、中古ドラム缶、改造ドラム缶）として再出荷されます。

特に鋼製ドラム缶においてはその材質強度から、4~5回のリサイクルが可能であり、リユース製品として、しっかりとしたリサイクルシステムが確立されています。これにより、新缶として生産されたドラム缶の約9割が再生ドラム缶（更生ドラム缶、中古ドラム缶、改造缶）として再生産されています。（平成14年時のドラム缶工業会資料より）

3rd stage

一定の更生処理回数を経たドラム缶は、最終的にスクラップスクラップ処理されます。スクラップ時には、使用済みのドラム缶内部の内容物（残渣）を取り除き、安全に処理がなされます。

鉄製のドラム缶はスクラップ後、貴重な鉄資源として鉄鋼メーカーで再び利用されます。

プラスチック製のドラム缶はペレット化され、再生ポリエチレン材料として一般雑貨、規格品、物流用パレット、農業用ポリエチレンシート材など、多彩な用途に活用されます。

環境負荷を減らそう！

新缶の製造時、更生処理時における環境負荷の軽減にも努力が続けられています。循環型社会形成推進基本法に代表される、国の定めた環境に付随する各種政令・規制をしっかりとクリアしたうえで、さらなる環境負荷軽減にむけた技術開発、企業努力が続いています。近年では塗料もエコロジー化。現在使用されているのは鉛やクロム等の有害な重金属を一切含まない、14色のエコカラーです。

何度もリサイクルが可能 しかも常に新缶クオリティ MPドラム缶®

薄手の内装缶を入れ替え装着することで、リサイクル後のドラム缶内部は常に新缶同様。複数回リサイクルが可能で、配送~回収までのすべてがシステム化された、MPドラム缶®は、エコマークも取得した、コストにも環境にも優しい製品です。（上記エコ塗料使用）

再生ドラム缶は通販でも購入可能



インターネットが発達した現在、ドラム缶、再生ドラム缶も、Web Shop で通販購入が可能です。

商品によっては即日発送にも対応しており、必要な時、直ぐに手配が効くのは大変便利です。

こんな用途には新缶を

新缶と比較して安価な再生缶ですが、用途によっては適さない場合があります。

こんな場合には再生缶は適しません。新缶を利用しましょう。

- 鋼製 / ステンレス製 再生オープンドラム缶
- ✕ 飲食物の充填用途
- ✕ ドラム缶風呂
- 鋼製 / ステンレス製 再生クローズドラム缶 (液体専用)
- ✕ ガソリンの充填 (KHK 認定品であれば軽油、灯油は OK)
- プラスチック製 再生ドラム缶
- ✕ 溶剤系、高温物 (80 度以上) の充填
- ✕ 飲料水の充填



再生ドラム缶各種が通販可能

[Web Shop POPLAR \(ポプラ\)](#)